

2:10 私たちはみな、ただひとりの父を持っているではないか。ただひとりの神が、私たちを創造したではないか。なぜ私たちは、互いに裏切り合い、私たちの先祖の契約を汚すのか。

2:11 ユダは裏切り、イスラエルとエルサレムの中では忌まわしいことが行なわれている。まことにユダは、主の愛された主の聖所を汚し、外国の神の娘をめとった。

2:12 どうか主が、このようなことをする者を、たといその者が万軍の主にささげ物をささげても、ひとり残らずヤコブの天幕から断つてくださるよう。

2:13 あなたがたはもう一つのことをしている。あなたがたは、涙と、悲鳴と、嘆きで主の祭壇をおおっている。主がもうささげ物を顧みず、あなたがたの手から、それを喜んで受け取らないからだ。

2:14 「なぜなのか。」とあなたがたは言う。それは主が、あなたとあなたの若い時の妻との証人であり、あなたがその妻を裏切ったからだ。彼女はあなたの伴侶であり、あなたの契約の妻であるのに。

2:15 神は人を一体に造られたのではない。彼には、霊の残りがあつた。その一体の人は何を求めるのか。神の子孫ではないか。あなたがたは、あなたがたの霊に注意せよ。あなたの若い時の妻を裏切つてはならない。

2:16 「わたしは、離婚を憎む。」とイスラエルの神、主は仰せられる。「わたしは、暴力でその着物をおおふ。」と万軍の主は仰せられる。あなたがたは、あなたがたの霊に注意せよ。裏切つてはならない。

2:17 あなたがたは、あなたがたのことは主を煩わした。しかし、あなたがたは言う。「どのようにして、私たちは煩わしたのか。」「悪を行なう者もみな主の心になつてゐる。主は彼らを喜ばれる。さばきの神はどこにゐるのか。」とあなたがたは言つてゐるのだ。

イスラエルは結婚のことで神をないがしろにしてゐると告発されています。社会が病んで来ると、そのしわ寄せは家庭内や親子関係に及び、またそこでの問題は社会に悪影響をもたらします。家庭の根本は結婚ですから、このことで神をないがしろにするのは見逃せないことです。

「ただひとりの神が…創造した」のであり、それゆゑ結婚も神のルールに従つたものでなければ、当然祝福はありません。しかし、イスラエルは神を無視し、自分の喜びや欲望や満足や目的に従つてしまつたのです。

「外国の神の娘」との結婚は、信仰の崩壊をもたらします。事実イスラエルはそれで多くの偶像がはびこるようになり、邪教が広まつたのです。また「離婚」は社会の崩壊をもたらします。離婚は社会の最小単位である家庭を崩壊させるからです。

マラキ書ではこれらを単に個人の罪として扱つてゐるのではなく、イスラエルという共同体として告発しています。私たちもこれらを個人攻撃のように扱うのではなく、イエス様の体である全ての人を思ひつつ、信仰と希望と愛によってみこころを行つてゆく必要があります。

また「あなたがたの霊に注意せよ」とあります。自分は大丈夫ということで済ませないで、同じ問題を自分もたましいに抱えていることに気づき、聖霊によってきよめられてゆきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

